

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

藍住南小学校
「学力向上実行プラン」

・学習指導要領を踏まえた指導方法と評価の工夫改善
・「主体的・対話的で深い学び」の実現

学力向上推進員	委員
教諭 城所絵里	校長(藤本武)教頭(美馬宏紀)6年主任(元木里美)1年主任(古川加寿美)2年主任(西谷基子)3年主任(高原まゆみ)4年主任(杉本知美)5年主任(森脇沙夕夏)特別支援コーディネーター(糸林麻都香・三浦理絵・酒巻愛子・瀧口悠里)指導方法工夫改善担当(吉岡千江美)

校長
藤本 武

【小中連携または中高連携における共通の取組】

ICTの効果的な活用と話し合い活動の充実により、児童生徒の学力向上を図る。

【各校の取組み情報の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字・計算やICTの基礎的・基本的な技能について、学年相応の力が付いてきた。 ○視写をすることで、速く丁寧に書ける児童が増えてきた。 ●語彙力が乏しく、読解力や聞き取る力、文章を書く力が不足している。	①基礎的・基本的な知識・技能について学年相応の力を身に付けることができる。 ②語彙数が増え、正しい言葉や漢字で読んだり書いたりすることができる。 ③各教科の単元テストで、低学年は8割以上の児童が正答率80%、中・高学年は7割以上の児童が正答率75%を超えるようにする。	①学習タイムや授業の中で、漢字・計算やICTの基礎的事項の定着を図る。 ②語彙力を増やすために、音読や週末読書を継続的に実施する。 ③低学年は、視写教材やコグトレを取り入れる。また、全学年を通してNIEを継続的に取り入れ、読解力や文章を書く力を養う。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学年の発達段階に応じて少しずつICTを活用できるよう取り組んでおり、高学年は、スピーチや発表、振り返りなどで、ICTを効果的に活用することができる。 ○振り返りでは、自分の言葉で話せる児童が増えてきている。 ●全体の中では自信が持てず、自分の考えを表現できる児童が少ない。	①目的に応じて、理由を明らかにしながら、自分の考えや思いを適切に文章に表現することができる。 ②友達との考えと自分の考えを比べながら、聴き、考えをまとめたり伝えたりすることができる。 ③考えたことや伝えたいことを、適切な音量や速さで話すことができる。	①自分の考えや思いを文章に書いたり、タブレットやホワイトボードを使って人に伝えたりする活動を取り入れる。 ②「発表名人」を意識させたり、考えをまとめるときのポイントを提示したりする。 ③ペアトークやグループトークを継続して行うことで相手に伝わるような話し方や聞く力を身に付けさせる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ほとんどの児童が「あいなん学習ルール」を意識して行動できている。 ●振り返りの際に、単純な表現で終わってしまう児童もいる。 ●個人用の辞書を持っているが、積極的に活用できていない児童もいる。 ●自主学習について定着はしつつあるが、取組み方に差がある。	①単元ごとの振り返りを様々な形で行うことによって、主体的に学習することができる。 ②辞書を積極的に活用して、学習に活かすことができる。 ③自分のめあてを持って自主学習に取り組むことができる。	①学年に応じて、タブレット活用して単元や授業の振り返りをさせる。 ②3年生から個人用の国語辞典を持たせ、活用させる。 ③「自主学習のめあて集」や自主学習ノートの例を配布し、活用することで、主体的に学ぶ習慣をつけさせる。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

